

国保医療統計

(1) 受診件数

区分	順位	1	2	3	4	5	6	7
入院	病名	新生物	精神障害	循環器系の疾患	消化器系の疾患	神経系の疾患	損傷、中毒等	骨及び運動器疾患
	件数	723	599	528	341	323	290	201
入院外	病名	循環器系の疾患	消化器系の疾患	内分泌	損傷、中毒等	呼吸器系疾患	骨及び運動器疾患	視器疾患
	件数	30,939	30,134	18,438	15,454	13,765	12,725	12,009

(2) 医療費

区分	順位	1	2	3	4	5	6	7
入院	病名	新生物	循環器系の疾患	精神障害	神経系の疾患	損傷、中毒等	骨及び運動器疾患	消化器系の疾患
	費用額	499,061,870	396,666,730	219,150,110	172,822,280	144,115,918	142,674,390	138,950,480
入院外	病名	循環器系の疾患	消化器系の疾患	性尿器系の疾患	内分泌	新生物	骨及び運動器疾患	損傷、中毒等
	費用額	435,457,400	407,928,530	360,962,770	348,813,490	311,509,550	199,851,950	196,121,240

後発医薬品（ジェネリック医薬品）差額通知

岡山県国民健康保険団体連合会へレセプト1件あたり21.6円で委託契約し、表1のとおり毎月25日に送付し、表2のとおり削減効果を得た。また、後発医薬品普及率についても、直近の数値（H26.10月診療）が、1年前（H25.10月診療）に比べ数量ベースで6.03%、金額ベースで8.80%上昇した。（表3）なお、平成26年度の委託料は約420万円の実績となる見込み。

表1 通知件数

通知年月	通知件数
H26.4月	693件
H26.5月	611件
H26.6月	534件
H26.7月	638件
H26.8月	670件
H26.9月	671件
H26.10月	646件
H26.11月	547件
H26.12月	524件
H27.1月	590件
H27.2月	639件
H27.3月	639件
計	7,402件

(見込)

表2 削減効果

診療年月	削減効果額	削減効果人数	後発品切替率
H26.4月	2,613,489円	1,558人	17.1%
H26.5月	2,837,457円	1,621人	16.5%
H26.6月	2,718,781円	1,631人	17.2%
H26.7月	2,847,410円	1,639人	15.5%
H26.8月	3,253,422円	1,709人	18.2%
H26.9月	3,268,194円	1,808人	17.1%
H26.10月	3,881,668円	1,936人	19.3%
H26.11月	3,881,668円	1,936人	19.3%
H26.12月	3,881,668円	1,936人	19.3%
H27.1月	3,881,668円	1,936人	19.3%
H27.2月	3,881,668円	1,936人	19.3%
H27.3月	3,881,668円	1,936人	19.3%
計	40,828,761円		

(見込)

(見込)

(見込)

(見込)

(見込)

表3 後発品普及率

診療年月	後発品薬剤総量	数量ベース普及率	後発品薬剤費	金額ベース普及率
H25.10月	446,445円	39.92%	10,716,923円	24.31%
H25.11月	434,477円	40.35%	10,308,655円	24.94%
H25.12月	468,148円	39.47%	10,927,447円	23.52%
H26.1月	431,501円	41.09%	9,771,914円	23.48%
H26.2月	412,188円	40.50%	10,134,611円	24.53%
H26.3月	476,549円	42.51%	12,016,263円	26.10%
H26.4月	485,189円	43.62%	11,397,863円	27.21%
H26.5月	477,361円	44.86%	11,272,696円	27.45%
H26.6月	472,808円	44.53%	11,128,753円	27.86%
H26.7月	496,861円	44.74%	11,562,872円	26.13%
H26.8月	496,567円	46.74%	11,571,796円	28.25%
H26.9月	506,019円	47.55%	11,503,908円	28.55%
H26.10月	559,310円	48.72%	12,606,356円	30.34%

<H26年度 市民アンケート結果のポイント>

アンケート回収人数 1,695人

内〔男性 674人・女性 1,021人 : 50歳未満 1,488人・50歳以上 207人〕

1 市内の医療体制について

問2 **日曜・祝日の当番医の存在及び必要性** 90%以上・・・市内に制度が浸透しているといえる。

問3 **夜間（19時～21時）の当番医の存在** 全体的には65%の人が認知

問4 **救急病院がどこか知らない人**・・・6割強

問5 **市内の病院・医院の数** 少ない又は特定の診療科が少ないと答えた人は・・・65%強

問5-1 **必要とする診療科**

皮膚科26.6%、整形外科13.6%、産婦人科10.6%の順に高く、外科や精神科の割合は10%未満

問5-2 **総社市の医療介護環境**・・・概ね以上満足している人は65～6%程度

2 医療機関の利用方法について

問1 **医療費の適正利用を意識している人**・・・9割以上

問2 **かかりつけ医**・・・8割を超える人が持っている。

問3 **市内のかかりつけ医へ行く人**・・・9割近く

問4 家の近くの医療機関を紹介 ・ ・ 行かない人が13% (223人)

問5 転院をすすめられた場合 ・ ・ 約84%の人は了承

問6 地域連携パスなどにより情報を共有することに対して 同意することを含め約85%の人が抵抗はない。

3 終末期の医療等について

問1 2025年問題を認識している人 ・ ・ 1割にも満たない。周知していくのが行政の役割

問2 在宅医療という言葉を知っている ・ ・ 6割の人が認識

問3 亡くなる時の場所 ・ ・ 自宅が46%で病院やホスピスも20%以上。介護施設8%

問4 治癒見込みのない場合に入院し続けたいと望む人 ・ ・ 7%程度

自宅やホスピスで療養したいと望んでいる人 ・ ・ 9割近く

問5 「エンディングノート」の認知度 ・ ・ 6割強

問6 エンディングノートを書かないと思う人 ・ 6割近く

5 介護について

問1 介護を受けたい場所 介護施設を望んでいる人が45%、自宅が3割、高齢者専用住宅、女性では2割超

問2 介護が必要になった場合 ・ ・ 家族以外の介護専門職約67%、女性では約73%

<地域医療連携講演会（2/25）対象者アンケート>

アンケート回収人数 198人

2 医療機関の利用方法について

問6 地域連携パスなどにより情報を共有することに対して 同意することを含め約90%の人が抵抗はない。

3 終末期の医療等について

問2 在宅医療という言葉を知っている ・・84%の人が認識

問3 亡くなる時の場所 ・・自宅と病院及びホスピスがそれぞれ約半数 介護施設6%

問4 治癒見込みのない場合に入院し続けたいと望む人 ・・5%弱程度

自宅やホスピスで療養したいと望んでいる人 ・・9割以上（自宅 4割弱・ホスピス 6割弱）

◎ アンケートから言えること

- ・「日曜・祝日の当番医の体制を知っている人」「診療時間内の診療を心がけている人」「市内にかかりつけを持っている人」の割合がそれぞれ9割以上で、概ね必要な情報を得て、適正に医療を利用していると考えられる。
- ・入退院の関係者が連携するために必要な情報を共有することに対して約9割の人は、抵抗感や同意の有無も含めて了解している。
- ・希望する終末の場所は、自宅と病院又はホスピスがそれぞれ半分弱となっている。自宅で終末期をおくる体制が必要